

税と当たり前

桜井市立桜井西中学校 3 年

四宮 華夢

塾帰りのことでした。私はいつもと同じ電車に乗り、駅に着いて改札を出ました。そこで私は額から血を流し、横たわっているおじいさんと、心配そうにおじいさんと話しているお母さんの姿を目にしました。私に気づいたお母さんは、

「このおじいちゃん、階段からこけて大丈夫ですかって聞いたんやけど、大丈夫って言い
はるから見てたんやけど、もう一回こけはって血もすごい出たし、パッキリ割れてて
ふらふらしてたから、救急車呼んでん。だから今その救急車を待ってるところ。」
と状況を全て私に説明してくれました。

「座ってて。救急隊来てくれはるから。」

しばらくして救急車のサイレンの音が聞こえました。ふらふらで壁に寄りかかっている
と立つことができないおじいさん。

「大丈夫。大丈夫。」

と自力で立ち上がり、お母さんや周りに居た大人に支えられながら、救急車の方へ歩いて
いきました。

「ありがとうございました。」

と、おじいさんがお母さんに言っていました。最後はおじいさんもお母さんも、私もみん
な笑顔でお別れすることができ、ほっとしました。

帰りの車の中。私はふと、救急車が有料になるかもしれないというニュースを思い出し
ました。そのニュースの内容は、救急車の無駄な出動が増え、救える命が救えなくなっ
てしまうということから、入院にならなかった場合はお金を支払わなければならないだ
ろうということでした。

私は、無駄な出動がどのようなものか気になりインターネットで調べました。救急車は
一回の出動で約 4 万 5 千円の費用がかかること。出動依頼の約 3 割は不適切な通報である
こと。タクシー代がわりに救急車を呼ぶ人がいること。など、沢山の情報を目にしました。
緊急以外の目的で救急車を利用する人がいることにとっても落胆しました。でも、不適切な
出動が多いという理由で救急車を有料化にすることには納得がいきませんでした。救急車
が有料になることで、迷惑行為を減らすことはできるかもしれません。ですが一方で、高
額なお金を払うことは負担になるため、本当に危険な状況でも我慢する人が増えるかもし
れません。あのおじいさんがもし一人で居たら、大丈夫と言って我慢していたかもしれな
いと考え、救えたはずの命が救えなくなってしまうことも事実です。

だから、救急車の利用について多くの人に現状を伝え、理解してもらえることで救急車
の利用を考え直すことに繋がると思います。私は、税がなくなることで毎日当たり前に思
っていたことができなくなるのは、私たちの生活に大きな影響を与えたいと思います。改め
て税の大切さに気づくことができ、税への見方が変わりました。